明治八年

大阪錦画新聞

第二十号

國々の病院と設け諸名醫盡力をりつく人を救ふ亦養生をさして人害をさぐの御仁恵豈仰ざるべくんやと嘆へぐ

して不養生を好める人多くしてとせど第一嗜へくハ大酒と淫欲なり美をたけさ二詠あり

東京深川は・さよとゝいへる嬶ありてゝ善助といへる者契約して・夜毎に四會の交合をなべき・證券をとりて・大兵工と云へる者のうゝへ嫁入せしゞ・大兵工も三夜さハ勤しゝど四日目に至りてハ陣衆をとさよハあゝく聞いまゞて・證書出して論せしと東京新聞紙上にあり・いゝな馬鹿者あまこゞハとてあまりの身をゝどゝやゝこまゝのたゝけハ・不養生ゝて貴重の命をちゞめる者ゆゝゞ

ア慎むべー

嗜むべー

笹木主人述

二代目貞信画

新聞屋画

明治八年　大阪錦画新聞20号　文庫10-8064-19
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library